



ORCAを使ってみて

十勝医師会 大庭医院

大庭 滋 理

大樹町は十勝支庁南部にある人口六千余の町である。私が小学校に通っていた時分は一万人を超えていたが残念ながら減少の一途をたどっている。牛の数はあまり変わらず今では人口の3倍である。酪農が中心の町で、一頃話題になった雪印の騒動は大樹工場が発信地であった。唯一の大企業の自粛で一時活気がなかった街も昨今は平常を取り戻している。現在は私も産業医としてお世話になっている次第である。

父である大庭嘉人がこの町で開業したのは東京オリンピックの年の昭和39年であった。私が札幌羊が丘病院を退職し実家に帰ってきたのは平成13年であるが、その時レセプトの請求は開業以来の手書きであった。

そろそろうちもレセコンなるものを導入しないと世の趨勢に遅れをとるなあなどと考えていた折も折、札南高バレー部の1年先輩である吉井氏より電話があった。聞けばS社なる会社で導入ベンダーの業務を行なっているという。医師会主導のソフトがあるので使用してみないかとのことであった。

当時大手メーカーの情報しかなかった私であったが、価格が安いということと医師会のお墨付きなので長い目でみて損はないよという先輩の言葉に納得して（逆らえず？）平成15年7月にORCAを導入することとなる。

結果的にこの判断は正解であった。設置当初3～4回インストラクターに来ていただいて説明を聞き、パソコン世代ではない五十代の

事務員も今では、手書き算盤の旧時代よりはるかに楽をしているようだ。

メンテナンスおよびトラブルに関して、田舎なので営業所が近くにない等不安もあったがADSL回線によるリモートメンテナンスによりむしろ即時性に優れているといえよう。トラブルがあっても電話一本で解決するので、むしろ地方にて開業されている先生にもお薦めである。インストラクターは医療事務にもコンピューターにも詳しいのでわからないことは電話にて質問すればO.K.である。吉井氏の話ではどのベンダーもきちんとしているわけではなく、事務担当者の問い合わせに答える能力が乏しくトラブルになることもままあるという。

薬価改正時等にあたってVersion upをリモートでしてくれるので当方は手間はかからず、改正翌日も前日と変わらず業務につくだけで、余分な金額はかからず年間十数万円の保守料のみで済むというのも魅力である。

機能的には度重なるVersion upの都度改良がなされ、外来に関してはほぼ遜色ないものができており、今後入院版のさらなる機能改良が期待される。

当院でのORCA使用はまる3年になろうとしているがこれといったトラブルはなく、今後レセコン導入を考えている先生におかれては、システム構築の柔軟性自在性および長年使用のコストパフォーマンスなどのメリットを考慮してORCAもひとつの選択肢となろう。

(参考：S社ホームページ

<http://www.softec-orcare.jp/>)



ORCA PROJECT 公式マーク